～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

針江・霜降

はりっしも Harisshimo vol.14 2022（令和４年）. 3

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

小さな町に
人と自然をつなぐ
湧き水と川がある

Message

針江・霜降地域は国の「日本遺産」・「重要文化的景観」の選定を受けています。

針江大川の梅花藻

令和３年度事業活動報告

どんな事業内容でしたか!?

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

【文化的景観保護実務研修会】4 月

■文化庁による研修会（WEB 開催）に水辺景観まちづくり協議会も今後の整備活用の参考に聴講させていただきました。講師は、神戸芸術工科大学 小浦久子教授（文化庁文化審議会文化的景観委員会委員）ほか。

【外部視察対応】

■市議会研修会講師及び市議会議長等視察（７月）
文化庁調査員視察（11 月）

【水辺灯り 2021】8月

■今年もお盆の８月１２日１５日実施。子供たちの絵を貼った流し灯篭や竹灯籠を水辺に灯しました。

霜降カバタ竹筒交換

水辺遊歩道公園のサルスベリ

【上流エリア水系視察】7 月

■霜降湧水最上流エリア及び開発予定地から上流域に足を延ばし、安曇川下古賀・入谷川（メガソーラー）周辺、饗庭井、土地改良水路、田井川上流等を視察。

【カバタ再生事業】～10 月

■湧水工事、基礎工事、建前の後カバタ周辺の石組み工事などを行い 10 月に竣工しました。

A 宅の内カバタ

【高島市重要文化的景観整備活用委員会】12 月

【内カバタ 写真撮影協力】

■金田章裕先生（京都府立京都学・歴彩館 館長）が水辺景観関係著書の発刊のため、針江・霜降の「内カバタ」を訪問撮影されました。

【全国町並みゼミ　事例発表】11 月

歴史と伝統 再発掘し次代へ
全国町並みゼミ奈良大会

■全国町並みゼミ奈良大会（奈良市）にて重要文化的景観「針江・霜降の水辺景観」の事例発表を行ってきました。第３分科会コーディネーターは、京都工芸繊維大学清水重敦教授（文化庁文化審議会文化的景観委員会委員）。

【高島市文化財保存活用地域協議会】3月

■「高島市文化財保存活用地域計画」が文化庁の認証をうけ、この計画を推進する地域協議会設立に参加。また、金田章裕先生（計画策定委員会委員長）のセミナー「未来につなぐ高島の文化財」が開催されました。

「水の文化」で人が育つ地域に

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会
会 長　足立　亨

■長引くコロナ禍のなかで今年度も十分な事業活動ができませんでしたが、皆さまのご理解とご協力をお願いし、私たちの大切な「水の文化」を「守り、伝え、繋ぐ」活動を進めていきたいと思います。

「針江・霜降の水辺景観」は、平成 22 年に国の文化財の一つである重要文化的景観に選定され、13 年目に入りました。平成 27 年には日本遺産「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」の構成要素に組み入れられています。

また、「高島市重要文化的景観整備活用計画（令和２年３月）」、そして「高島市文化財保存活用地域計画（令和３年３月）」が、当地域でも長年お世話になっている金田章裕委員長（京都大学名誉教授・京都府立京都学・歴彩館館長）のもとで策定され、この二つの計画をもとに、針江・霜降の水辺景観もこれから５年 10 年かけて整備活用を進めることになります。

貴重な水の宝物「水の文化」を次の世代へ。文化財価値を高めながら、地域の自然・歴史・生活が育んだ文化財で人が育つ、文化財で人を育てる地域になればと思うところです。

はりっしも探索

お宮さんの横に
令和のカバタ誕生

●ご利用ください
水辺景観・親水施設
【じんざかばた】

▶豊富な生水が湧いています！

■水辺景観協議会で取り組んでいる親水事業の一環として、針江日吉神社の西側、髙田一雄さん旧宅敷地の休眠カバタを借り受け、元のカバタの基本構造を残して周囲の整備を行い、再生活用しました。ネーミングは、髙田さんの屋号にちなみ「じんざかばた」と呼ぶことにしました。

■散歩やウォーキングの途中に立ち寄ってご休憩ください。湧水をご家庭の飲料水としてご利用いただけます。水質検査済です。

湧水やカバタへの思いを大切に

■建物の設計デザインは、針江区の田中詩小さんが国立舞鶴工業高等専門学校に在籍時、第15回全国高等専門学校デザインコンペティション（２０１８年）空間デザイン部門において、審査員特別賞を受賞された作品、テーマ「発酵する空間、熟成する空間」の建築提案から「味わうカバタ」をデザイン・コンセプトとして建設しています。地域住民の湧水やカバタを大切にしたいとの思いを込めた再生カバタです。

ちぎり絵「梅花藻」

■「じんざかばた」の完成記念に、本広報「はりっしも」のトップの絵を毎回描いていただいている宮田美津子さんより、ちぎり絵「梅花藻」をご寄贈いただきました。

文化財を未来につなぐために

高島市
文化財保存活用地域計画を作成しました

■市では、文化財を守り、活かして次の世代に伝える取り組みを進めるため、令和２年度に「高島市文化財保存活用地域計画」を作成しました。この計画は、市がこの先１０年間の文化財の保存と活用に関するビジョンと具体的な推進事業を示したもので、今年度は市民の皆さんと共に効果的に計画を推進するための組織づくりに取り組んでいます。

■計画では、取り扱う文化財の定義を幅広く捉えて、「食文化」「人物」、「伝統産業」等**「市の歴史・文化を理解する上で重要なもの」**も、地域の歴史や文化を語る重要な資産として「文化財」と位置付けています。

■また、計画を推進するための３つの方針の１つに文化財保護の根本となる**「調査と状況把握を進める」**ことを掲げました。

■加えて、広域に点在する文化財のより効果的な活用を図るために、**「歴史文化の特徴を表す５つのストーリーを設定」**し、より多くの人に興味や関心を持ってもらえる発信を目指しています。

■計画の作成に先立ち実施した文化財の事前把握調査では、重要文化的景観地域内において、水にかかわる多くの文化財の存在と価値を再確認することができました。このことから、調査成果によってまとめた高島市の歴史文化の特徴の１つに「水辺の生活文化」を加えました。

■そのほか、５つのストーリーの１つに「湖辺の祈りと暮らし」を設定しています。これは、重要文化的景観や日本遺産に選定される水辺の景観と、そこに暮らす人々の生活文化がつくりあげた文化財をつないだストーリーで、「針江・霜降の水辺景観」のほか「カバタ」や「針江大川」、「湖岸のヨシ群落」などの水にまつわる文化財が構成文化財となっています。

■計画に示した取り組みは、今後、行政や文化財所有者だけでなく、文化財に関心を持っていただける多くの皆さんと共に、様々な手法で進めていくことになります。高島市の魅力ある文化財を未来へつないでいくため、引き続き地域住民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

（高島市教育委員会事務局文化財課）

水辺景観　四季の便り

コウノトリ　写真：美濃部 勝己さん

■新年早々、湖岸のヨシ帯に幸せ運ぶ鳥といわれる国の特別天然記念物の***コウノトリ***がやってきてくれました。１メートル以上もある大型の鳥で、一昨年の８月にも竹藪近くの水田に２羽飛来していたこともあります。今シーズンは、針江浜に***コハクチョウ***もたくさんやってきました。灰色の幼鳥も混じって５０羽近く見かけたこともあります。また、大川の川べりをよく見ていると、腹部がきれいな赤茶色で翼に白斑がある冬鳥の***ジョウビタキ***がいたり　翡翠（ひすい）のような体色から“飛ぶ宝石”ともいわれる***カワセミ***が眼前をかすめたり、大川を遡ってきた***カイツブリ***の愛くるしい姿が見え隠れしています。

針江大川 下流

コハクチョウ ヨシ帯

はりっしも information
守る。伝える。活かす。

＊当協議会は、高島市から「針江・霜降の水辺景観魅力向上業務」の委託を受けています。

◆重要文化的景観に選定された際に重要な構成要素として認定されているカバタ（４５件）などを保存修理・修復する場合は、国から経費の補助を受ける制度があります。

◆国の認定を受けていないカバタや文化的建造物等も調査検討により追加認定が可能です。

◆カバタの「保存修理」、「追加認定」をご希望の方、重要文化的景観の構成要素の整備活用等のご相談は、当協議会の役員までご連絡ください。

針江・霜降の水辺景観 資料室　開設準備中

水辺景観の関連資料を募集します！

■針江公民館２階で準備中の水辺景観資料室は、少しずつ備品設備や関係資料をそろえながら整備中です。新型コロナ対応状況にもよりますが、４月より日時を限定して公開する予定です。重要文化的景観の関連資料、地域の古い写真や古文書、文献、記録類など、公開やご寄贈いただけるものがありましたら、協議会役員までお知らせください。

２０２１年度 針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会　役員

会 長　足立　亨　副会長　前田豊彦　（針江区長）　山川　隆（霜降区長）
〔針江〕伊藤　昭　髙田一雄　三宅　進　髙橋正通　森田茂之
〔霜降〕川島豊彦　青木　博　海東　弘　山川三津浩